

1. 第1回協議会の指摘事項と対応(案)

(1) LRT整備の目的と実現に向けた市民との協調

No.	ご意見等	対応(案)
1	市街地に導入するLRTでは、自動車交通との関係が大きなテーマである。流入規制などの施策に対して市民から理解を得るためには、そのことが快適なまちづくりと地域の活性化に繋がる効果を示す必要がある。	基幹となる公共交通の導入によって回遊性が向上し、歩行者主体のまちづくりによる賑わいが創出されることで、既存商業施設の売り上げの向上等、中心市街地における活性化の効果が得られることを示す。 資料3 P5～6
2	LRTがまちづくりの手段として位置づけられていることは理解するが、更に商工業活性化、高齢化対策、過疎化対策などの生活に直結する多面的な切り口からも議論する必要がある。	LRT導入により設定ルートを活用することで、都市への効果があることを具体的に示す。また、今後は協議会等でさらに効果を高めるような施策について議論していく。 資料3 P5～6、10
3	LRTの計画では地域との調和も重要な事項であるので、地元の意見を反映できる態勢が望まれる。	LRT計画に対する意見聴取などを行っていく。

(2) ルートについて

No.	ご意見等	対応(案)
1	現在の案では、整備効果の観点から中心市街地を主体としたルートが設定されているが、将来はその他の地域への延伸も見据えているのか。	現在のルート案では、葵ルートは七間町、駿河ルートは駿河区役所を端部としているが、将来ネットワークの構築を踏まえ、延伸を見据えた交通結節点の整備を検討している。 資料3 P10
2	新静岡やJR静岡駅前は近年整備が終わった状況であり、LRT線路の乗り入れに市民の理解が得られるかが鍵となる。	静岡市の一体となった交通ネットワークの構築のために、LRT導入の際の既存鉄道との結節は不可欠であることを呼びかける。また、可能な限り現在の整備状況に影響を与えない結節方法の検討を行う。 資料3 P10
3	LRTは公共交通体系の一翼を担うものであり、バス等との結節に留意した連携策を重視する必要がある。	交通結節点においては、他の公共交通との乗り継ぎ利便性などを十分に考慮した整備の検討を行い、また、他の公共事業者との連携によって、一体となった交通ネットワークの構築を目指す。 資料3 P10